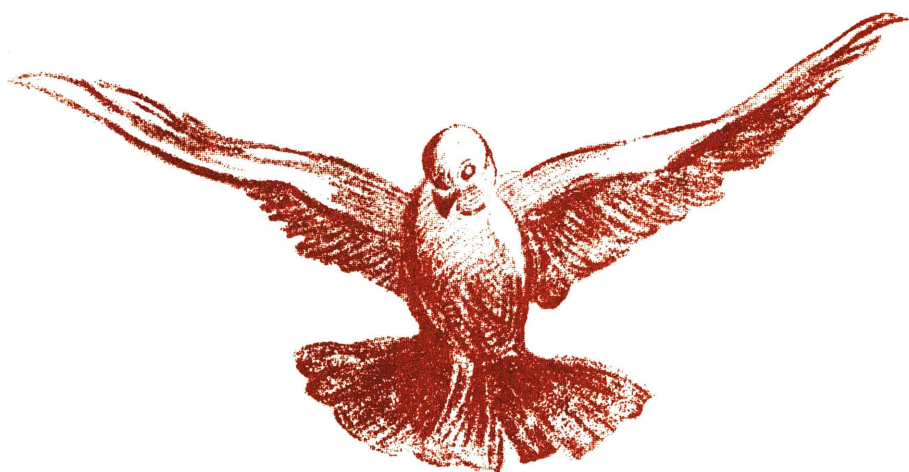


幼 兒 の 教 育

第 九 号

第 四 十 六 卷



日 本 幼 稚 園 協 會

日本幼稚園協會編

幼稚園お話集

いつでもですが、わけても此の頃、幼児の心は、いいお話に飢えています。幼児のためのいいお話とは、聴くに楽しく、ほどのよい甘さもあつて、柔い心の味覺をよろこばせ、消化し易く、純な心の榮養となることでありましょう。そうゆう好評で初版以來廣く行われ、その後暫く絶版になつていた、日本幼稚園協會編の「幼稚園談話集」に、除くべきものは除き、新しく四十餘篇を加え、全體に亘つて嚴密な校訂が行われ、三冊に分装せられたのが、此のお話集であります。幼いお子さんの必須の心の糧として、幼稚園、保育所及び家庭の、久しき御待望に應じ得ますことは、幼児保育界におつとめすることを使命とする、本フレール館の大きな喜びであります。

B六判全三冊

各冊 二百頁内外

上・中・下 卷

定價各金四拾五圓

送料 各金三圓

發行所

東京都千代田區神田
神保町二丁目四番地

株式會社

フレール館

銀座口東京
一九六四〇番

目 次

幼兒教育者とユーマア……………倉橋惣三(2)

幼兒童話の發展……………波多野完治(7)

科學・生活・教育……………木場一夫(11)

地上の花……………根岸草笛(16)

二保育の實際二

運 動 會……………岡崎修子(24)

講 座

幼稚園の生活形態……………倉橋惣三(27)

會 話……………(32)

幼児教育者とユーモア

倉橋惣三

やさしさといひ、ゆきとどくことといひ、殊に、まじめさにおいて、申し分のないといわれる先生で、おしいかな一點足りないと思わせることがある。ユーモアのない人である。

ユーモアと、イギリスの言葉のままを持ち出すのはとも思われるが、どうもびつたりしたいいあらわし方がむつかしい。滑稽、諧謔と書いては、字がかたいばかりか色が濃すぎゝる。おどけ、ふざけといえは、わざとらしさが感じられ、ひょうきん、とぼけなどという、性分の傾向のように響く。もつと淡く、どこまでも自然に、性分というよりは気分といつた方がいひ氣の軽さである。

かういふ軽い気分といつたことは、人格とか、教育者としての本質とかに、かれこれ取り上げられる程のことではないかもしれない。しかし、教育者^{殊に}にも幼児の教育者は、先生であると共に幼児のともだちであるといふ點からは、幼児の世界の一つの主な特質であるユーモラスな點にも、一味相通するところがほしい。その全く缺けている先生は、幼児に

とつて、有り難い先生であつても、うれしい先生でなく、たよりになる先生ではあつても、打ちとけられる先生ではないかもしれない。子どもがそういつたら生意氣だが、味のない先生かもしれない。

おもしろい先生というのは語弊がある。殊に、つとめておもしろい先生にならうとしたりすると、いやみになる。悪ふざけで幼児さまの御機嫌をとつたり、笑わせるために、幼児をくすぐつたりするのは、ひつっこいしわざでもある。子どもの人氣をとろうとする遊び相手や、子どものかつさいを拍そうとする話し手などに、そういう小細工の見えすくのは下品であり、卑しむべきである。しかし、そんな、わざとすることではなく、その人の氣分の軽やかさから、ふと出るユーモラスな口調なり動作なりが、子どもを喜ばせ、少くも、子どもの心をらくにさせることは、幼児の友だちになれる一つの資格である。萬事がきちりきちようめんて、常住かみしもをつけたような態度だけでは、根がユーモラスな幼児が近づき

難いこともないでなからう。

その日の健康加減などで、重くるしい気分、何か特別の事情でもあつて、むすぼれた気分、それは、誰にでもあり勝ちなことである。おとな同志では、無理もないと思ひ、同情もされるのであるが、幼児の傍にいるものとしては、それも好ましくない。憂鬱な顔、澁いしかめつら、幼児の友としては、禁物でもあり、ゆるし難いことでもある。ユーモアの缺けているというのは、そうしたほどこではないが、いつもいつも、餘りにきまじめに四角四面過ぎ、餘りにまつすぐに直線過ぎ、まるみもなく、ゆるみもないのでは、幼児にとつて氣苦しかろう。その心の奥にはやわらかみもあり、その底には温みをもつていても、木でこしらえた無表情の面のようには、幼児には受けとられまい。謂わば、餘りに、そつけないのである。幼児が親しんでゆくことが出来ないうころか、近づいてもゆけなかつたりする。先生の方としていえば、幼児をひきよせることも、なすませることも出来にくいことになる。

幼児の心をひきよせなくつたつて、親切をつくし、人格的感化を興えさせればいゝと、ひきしまつた口で、その人はいうでもあらう。なすませたりなんかしては、人の師たる威厳をそこなうと、あお白の顔で、その人は思うでもあらう。が、それでは、子どもを愛し、教えることは出来るとして、子どもと一つにはなれない。一つに溶けあわなくて、

眞の教育も出来ないのであらうし、愛するといつても、一方的に終らないと限らない。

子どもと一つになれるためには、先生の方に、子どもの心と相通するところがなくてはならない。たいらにいえば、どこかに、子どもらしいところがなくてはならない。勿論、どこかにである。すっかり子どもと同じというのではない。先生は先生であるが、一脈、子どもに似た點をもち、子どもらしい面もあらねばならないのである。子どもらしいというのがお氣にいらぬならば、子どもに似るといってよい。それがいよゝ失禮に聞えるなら、重心といつてよい。童心という、大層神聖なものに解されることもある。漢語では純眞、英語ではインノセント、それに相違ない。フォイエルバッハはインノセントをほんの幼い心と、高い聖者の心との二つに分けて、高い方は神の心の眞純に通ずるものとした。人が童心の貴さというときには、その高い方の意味が主になつているのであらう。しかし、そういう高い考え方は暫く別として、子どもの心にあるがまゝに感ぜられるものは、その氣輕さである。浮き浮きしているという譯ではないが、沈んだ重さではない。陽氣といつては、はしやぎ過ぎるが、暗い陰氣ではない。げら／＼笑つてはいけないが、すぐにでも笑い出そうとしている。舞い狂つてはいけないが、すぐにでも踊り出そうとしている。少くも、なんでもが動きかけて呉れるのを待ち、笑いかけて呉れるのを待つてゐる。餘りに均勢のとれ過ぎた靜、しかつめらしい整は、究屈である。氣づまりで

さえる。靜の中にも一味の動、整の中にもふとしたくすれの氣輕さ。——その氣輕さこそ童心であり、ユーモリスト幼兒の心である。従つて、その氣輕さ、そのユーモアを全く缺いては、幼兒の心と一つになれぬ。

ユーモアというと、却つて事々しくもなるが、木の葉のひら／＼散るのもユーモアである。石ころのころ／＼ころがるのもユーモアである。窓の戸のきちんとあわないのもユーモアである。天井の雨漏りのしみもユーモアである。端麗な先生が、遊戯の後で、感興のまま、象のおかしな歩き振りをするのユーモアである。謹嚴な先生が、お話の中で、興の乗つたまゝ、おもしろい猿の鳴きまねをするのもユーモアである。それも、しくみたくらんだ悪ふざけではなしに、子どもに圍まれてゐる快い氣の輕さに、端麗がちよつとくすれ、謹嚴がちよつぱりほどけて、自分でも笑ひこけるところに、ユーモアのしん／＼たる妙味がある。子どもらの喜びや察すべきであり、その先生にとつても、極めて幸福な一瞬である。時とすると、そんなことから、先生が子ども心に結びつき得たり、子どもが先生を大好きになつたりすることも稀でない。但し、策略では勿論ない。人氣とりなんかでは全くない。そんな毒氣が少しでもあつたら、それは決してユーモアといえるものでもなく、子どもを害するものである。

氣の輕さと共に、ユーモアのもう一つの本質は、心もちの

ゆとりである。小さい水には小波もたゝない。廣い海には波の戯れがある。狭い室内では息がつかまる。廣い野原では氣のびのびする。熱心は貴いが、集注に過ぎては肩がこる。まごころは一層貴いが、一筋過ぎては足がすくむ。餘裕といつて熱心が缺け、平氣といつてまごころが足りないのは許せない。しかも、ゆとりのある心は、肩をよせて見つめるばかりでなく、せか／＼と氣をいらだたせることなく、いつでも、どんなときでも、ひろ／＼と、ゆつたりした氣分を失わぬ。いち／＼な心のあいまに一寸した氣散じのすきも残れば、むき、眞正面の眞剣の間にも、せき込まない餘裕が保たれるところにこそ、自分の心をゆるめ、人の心をも解くユーモアのゆとりがあるのである。

子どもらの心が、ゆとりの天地に生きてゐるのは彼等の恵まれた幸福であるが、それを取りかこむ我れらの心の、なんと常にゆとりの少ないことであらう。そのゆとりのない顔を見て、子どもらは、どんなにかたくるしい思いのすることであらう。そのゆとりのない聲を聞いて、どんなにぎごちなくも感ずることであらう。おとなは、そのかたくななを嚴肅と呼び、そのぎごちなさを嚴格と稱えて、教育の規としたりするが、教育そのものは嚴なるものであるとしても、その教育で心が一ぱいになりきつて、すきも餘裕も残り保たれないのは、われらの心の狭さからであり小ささからである。ユーモアの名において、ふざけよ、おどけよ、じようだんをいえというのではない。たゞ、心にいつもゆとりを存していたい

と思うのである。このゆとりの中に、子どもらの無邪氣ないたすらも許されるであろうし、軽いからかいで子どもを喜ばすことも出来るであろうし、子どもといつしよに、うつとりしていることも出来るであろうし、子どもと共に心から興ずることも出来るであろう。こんなことは、教育として格別たしいしたことでもないかも知れない。しかし、子どもには、それが、どんなにうれいしことであろう。先生は、えらい人であると共に、ありがたい人であると共に、どこか自分達に似たところのある人だと思ふであろう。わたしの先生だとも感ずるのである。

根がきまじめな自然に、案外ユーモアの多いのも面白い。厳かな杉木立の奥に、ぶらりとぶらさがつている紅いからすうり、足も躡み込めない夏草の茂みの間に、ちらり、そつとのぞく白いひるがおの花、がさ／＼と鳴る枯落葉のかけに、かくれたつもりで頭を出している圓いきのこ、ほ／＼ましいいユーモアである。人間にも、そういうところをもつ人がある。一塵をとどめず掃きよめた庭に、二ひら三ひら葉を散らしておくのが風雅だといつたりするのは、わざとらしい、いやみな茶氣であるが、掃いて掃いている後から後から、小さな落葉がいたずららしくついて来るのは、かわいらしいユーモアであり、鏡の前に凝つた化粧のかきぼくろは、みえすいたおしやれであるが、何げなく笑うと出来る片えくぼは、愛くるしいユーモアである。そこに自然の愛情があり、人間の愛嬌もある。

愛嬌は、それがすぐに、好意、親切、といったものではないからうが、よしみを感じさせるものであり、親しみを起させるものである。降りしきる雪は冷い程白いが、雨戸のすきまに細く吹き込む時、粉雪、冴えきる月はすこい程蒼いが、板戸のふし孔をのぞき込むそれには誰れも、よしみを感じ、親しみをもたずにはいられない。先生の人格は、屢々、雪の如くに純に、月の如くに清い。その先生に、粉雪の戯れ、漏光の戯れがあつても、その感嚴を損する譯でなく、却つて幼い心によしみを感じさせ、親しみをもたせることも屢々であらう。たゞに、野一面の純白、一天隈なき清光だけであつては、その美は幼い子らを近づかしめないかも知れない。圓滿の人格、崇高の人格に、一點小さいな軽い、愛嬌のまじる時、幼い子らは、どんなにか心安く、その傍に近よらせて貰えるであらう。ユーモアはつまり、つくらない小さい愛嬌である。念のため、もう一度いう。どこまでも、つくらない小さい愛嬌である。つくり愛嬌、大げさな愛嬌は、ユーモアでないのみでなく、ユーモアの反対である。つくり愛嬌は、甘過ぎる菓子のように、幼児の心の味覺をあらす。大げさな愛嬌は、高過ぎる太鼓のように幼児の心の聽覺をおどかす。どことないところ、そうとしたところにこそ、眞のユーモアがあるのである。その意味で、ユーモアも亦一つのまことである。子どものユーモアが常にそうである如く、おとなのユーモアも常にそうでなければならぬ。自然のユーモアが常にそうである如く。

幼 兒 童 話 の 發 展

法政大學教授 波 多 野 完 治

アメリカの幼兒童話で、今一番子供にすかれてゐる作家は誰か。それはマーガレット・ワイズ・ブラウンという若い女流作家である。まだ三十歳そこそこの獨身婦人で、幼兒童話をかき出してから七八年にしかならないが、この間に五十餘種の繪本を出版し、その總計約百萬部をうりつくしてゐる。

最近出た「小さいうさぎのおやこ」という童話などは、初版七萬五千部を印刷した、というからこれだけでも、本屋が彼女の繪本の賣行きにいかにも自信をもつてゐるかがしられる。繪本はアメリカでも三ドルから五ドル位するので、廉價版の出る大衆小説のように、何十萬部もうれることはないのである。

ブラウン女史の幼兒童話はなぜこんなに子供たちの間に人氣があるか。これにはいろいろの原因がある様であるが、これを三つにわけて考えることが出来るようである。

(一) 第一は裝釘が變つてゐること。ブラウン女史の本は、今までのように表紙が紙で出来てゐる許りでなく、たとえば動物の繪本などだと毛皮のようなフカフカした表紙にな

つてゐる。——つまりうさぎやくまが、子供に「さわられる」のである。ときにはそれを「食べる」ことも出来る。それはビスケットのように食物でできてゐるわけではないが、たべても毒にならない、品物で出来てゐる。このように本が、唯觀念と視覚とにうつたえるだけでなく、ほとんどあらゆる感覺にうつたえるようになってゐる。ブラウン女史の考えでは、子供は五歳位まで感覺生活が上昇して行く、それに應じて、彼等はあらゆる感覺の點で、大人よりずつと敏感で、又その感覺のたのしみが大きい。だからこの年ごろまで、大人は子供のあらゆる感覺、特に「觸、臭、味」を充分満足させ、發達させるように配慮してやらねばならない。又このころまで、子供の感覺は相互の間に分化しておらず、あらゆる感覺が融合してゐるから、視覚だけを満足させる繪本は不適當である。五歳以後になると、視覺の優位があらわれて來て、又大人の世界の影響で觀覺的なワタが出来てくるので、繪本もそれに適當したように變化していかねばならない。こういう考えから彼女はいろいろ

感する本「Feely book」をこしらえ出したわけである。

(2) 次に女史の本はごくすくない單語がつかつてあるが、このごくすくない單語とまじつて、めずらしい、むずかしい單語が出て来る。今までの幼児教育の理論では、單語がやさしくなければいけない。という方面ばかり説かれて、むづかしい單語を入れる方面はとかれなかつた。ブラウン女史の考えによると、子供は一冊の本のなかに二つか三つ位めずらしい、むづかしい單語があるのは、少しも理解に困難ではないし、そのむづかしい單語をよくおぼえるものである。一體子供は出来さえすれば、むづかしいコトバをおぼえたり、つかつてみたがるものなのである。そうして、その言葉の表現性をはつきりつかむことも出来る。又、たとえその言葉の意味がわからなくとも、繪本をたのしむのに差支ない。ということだつてないとはかぎらない。たとえば、自分(ブラウン女史)は小さいとき、フランス語でかいた繪本をよんでもらつたことがあるが、自分にはフランス語は少しもわからなかつたけれどもその發音の面白さと、繪とで、けつこう楽しかつた。このように發音の面白い、じかしむずかしい言葉というようなものを上手に繪本の中に入れることは、繪本を面白くし、印象的なものにするのである。

(3) このような特長の外に、なんといつても彼女の本の特長は話の内容にある。その内容は多く動物の話で、未知の地方の仔動物の生活である。半分動物の習性にもとづき、

半分架空のものがたりである。だが、この架空の物語がどうして子供の心にうつたえるようにかかれるか、その原因をさぐるためには、我々はミッチェル女史の説を知らなければならぬ。

ブラウン女史が童話をかきはじめたのは彼女がニューヨーク市の實驗學校の幼稚園につとめていたときであつた。この實驗學校はアメリカの進歩的教育の發生地であつて、ことにその保姆養成所はいい仕事をしているがブラウン女史はこの幼稚園で、子供にお話をしてきかすことと、そのお話に對する幼児たちの反應を記録することを命ぜられたのである。この記録をとつていうちに、女史は、然しこの實驗學校の「童話新聞」に疑問をいだきはじめたのである。

ニューヨーク市の實驗學校幼稚園は當時ルシー・スプレীগ・ミッチェル女史の主宰するところであつた。ミッチェル女史の童話理論及實踐は「いまこゝ童話集」及「續いまこゝ童話集」の二巻にまとめられているが、その主張は次のように要約することが出来る。

(1) 二歳から六七歳までの幼児に對してはグリム、ペロウ等の昔噺は適當でなし。

(2) このような昔噺——むかしむかしあるところにはじまるお話の代りに、存在の身近な生活に取材した、「いまこゝ」here and nowの話が提供されなければならぬ。そうしてこの主張の根據とするところは次のようなもので

あつた。

(イ) 昔噺は小さい子供にはわかりにくいものである。自動車はしり、ヒョーキのとぶ世の中に、蛙の王様やカリフの鶴の物語はわかりにくい。おひめ様や王様の生活は子供の生活にあまりに縁遠くて、子供の理解をこえてゐる。

(ロ) それはわかりにくい許りではなく、道徳的に有害さえある。昔噺は民族の昔の生活にとつては不可欠の教訓を提供したかも知れない。だが、それは今の子供にはあわな。第一それは残酷すぎる。ジューフリードの物語などは子供にはおそらくたえられない刺戟であろう。第二に、そこには今の子供にまねてもらいたくない行爲がある。(ウ) ソツキ、人をベテンにかけること等) 第三に、そこには子供がまねていけないだけではなく、今の世では絶対にさげなければならぬ道徳律が平氣でやぶられている(近親相姦等)

(ハ) 東洋の道徳的意味がこのように子供に有害である許りでなく、昔噺にもられてゐる呪術的世界観は今の世の中の支配的世界観たる科學的原理と對立し、これを養う上に障害になることを保しがたい。昔噺でそだてられた子供は科學的原理を學ぶために二重のほねおりをしなければならぬ。即ち、呪術的世界観をすてることと、科學的世界観を獲得することである。それ位なら、始めから——勿論子供の知性の範囲内であるが——科學的世界観をおしえるに如かなく。

(ニ) 昔噺には以上のような缺點があるが、子供が話をこのむ以上、それなしにはすまされぬ。だから新しい話を子供のために「創作」してやらねばならぬ。この創作幼児童話は昔噺の缺點をのぞいたものでなければならぬから、従つてまず第一に、子供の生活に近い、子供の理解力範囲内にあるものでなければならぬ。

(ホ) このような現代の子供の生活に取材したものならば道徳的にいつても昔噺のような心配はないし、又科學的な方面でも呪術的世界観をおしえこんでしまふ、というようなおそれはない。時は現代なのであるから、始めから科學の世界が、子供の理解の範囲で展開されるのである。

(ヘ) 但し昔噺がいけない、というのは子供に對してのことであつて大人が新しい幼児童話を創作するために昔噺の研究をする必要は非常にある。よく人々は昔の人間と今の子供の心性の間には共通點が多いから、という理由で、昔噺は今の子供に理解され、共鳴される筈だ、という主張をするが、これは理論的にも實際的にも事實でない。第一、神話は今の學者にも仲々理解しがたいものなのであつて、そんなな子供にたやすくわかるものではない。更に、昔噺と、今の噺と兩方を子供にしてその反應をくらべてみると、今の創作童話がうまく出来ていけば、昔噺よりすつとよることばれるものである。

○ 大體以上のような論據にもとずいてミッチェル女史は昔噺

をしりぞけ、「いまこゝ童話集」二巻を編纂するにいたつたのである。「いまこゝ童話集」はニューヨーク市の實驗學校で實際にこころみ、成功した話ばかりを集めたものであるが、それはなる程子供によろこび相な題材が、子供にうけ入れられ相な形式でかたられてゐる。但しそれは英語の特色を非常によくかした「詩」のようなもので、翻譯が極端に困難なのを遺憾とする。

たしかにこれは革命的な童話理論であつた。今までドイツやフランスでも昔噺の教育的價値に否定的態度を示すものがないではなかつた。然しそれらは結局昔噺を全面的に否定することにならず、その現代的改作に従つてゐるのである。たとへば「赤ずきん」が殘酷だといふので、終りをハッピーエンドにするなどという程度であつた。

ところがミッチェル女史のは昔噺をほとんど全面的に否定し、その代りに現代の創作童話をもつてしようとするのである。

この本はこの革命的意義にふさはしく、實に調子の高い名文であつて、その説の當否はしばらくおいて、讀者に一種驚嘆の念をおこさせる程のものである。おそらくミッチェル女史の教育的熱情が我々讀者の胸にじかにせまつてくるのである。

とも角このミッチェル女史の主張は二つの面をもつてゐる。一つは昔噺の排斥の面、他の一つは今の噺の創作の面、それが「科學的世界觀」を教育するもの

でなくてはならぬとする面である。

さて、ブラウン女史は、實驗學校で童話の仕事をしてゐるうちに、この第二の面に疑問をもち出したのである。昔噺が今の子供にとつてよい内容のものばかりでないことはたしかであらう。だが、今の創作童話が事實にもとずいたもの語りでなければいけない、というのは正しいであらうか。子供の科學的世界觀を養うには、觀察法のようなものでなければいけないのだらうか。もつと大きな空想。もつとぼんやりした、せせつこましくない氣持をやしなうことが、子供にとつて有害であらうか。

このような點から彼女は子供の生活とはあまり直接の關係はないが、然し子供の關心のまゝである對象、即ち「動物」を主題とする話を書こうと考へついたのである。

結果は大成功であつた。子供はブラウン女史に追隨した。出る本も出る本も子供のうけ入れるところとなつた、ということが、ブラウン女史の考への正しさを證明した。

だが、我々はここではつきりとしらなければならぬ。ミッチェル女史の童話理論がなければブラウン女史のこの空想的な、面白い童話は生れなかつた、ということ。ブラウン女史の童話はミッチェル女史の童話のアンチテーゼ（反對物）であるが、しかもこのアンチテーゼはミッチェル女史のおかげで生れてきたのであるということ、そうしてミッチェル女史の童話理論が、子供の科學的觀察にもとずくものである限

りブラウン女史の童話は「科學的童話」の揚棄のようにみえるが、實際は科學にもとずいてはじめてこの科學の克服、科學の揚棄が行われたのだ、ということである。

○ 日本の幼児童話は目下混沌状態にある。この混沌を脱するには、天女の出現をまたねばならない。それはわかり切つたことであるばかり幼児童話に關する限り、天才はひとりでは出現しないであろう。ブラウン女史の天才はミッチェル女史の科學に依存したように、日本の幼児童話も、その基礎に幼児の科學的觀察をもたなくては本當の開花をもち得ないのではあるまいか。

○新保育講座

愛育研究所と東京女子經濟專門學校と共同主催で、次の要項により新しい保育内容の研究講座が計畫せられた。

期日及時間

昭和二十二年十月二十一日から十二月廿三日迄

同 二十三年一月 十日から三月二十三日迄

の毎週土曜日午後一時半—四時

課目及擔當講師

課 目 回 勤 擔 當 者

學校教育法及保育要領について 一 文部省初等教育課長 坂元彦太郎

新保育原理 二 愛育研究所教養部長 山下俊郎
 幼兒心理學 二 愛育研究所員 森脇 要
 保育環境論 一 文部省囑託 功刀よし子
 保育環境論 一 功刀よし子
 幼兒のリズム 二 津田塾學校教授 中島孝子
 幼兒の音楽 二 Y・W・C・A 福岡 敏子
 幼兒のお話紙芝居 二 文部省視學官 諸井三郎
 人形芝居劇遊 二 文部省事務官 上澤謙二
 幼兒繪畫の製作 二 文部省事務官 山形 寛
 健康保育 一 愛育研究所長 齋藤文雄
 自由遊び 一 功刀よし子
 見學、自然研究 一 山下俊郎
 年中兒童文化 一 保育研究所員 竹田 敏雄

計 十八回

會 場 中野區本町通六丁目三十三東京女子經濟專門學校

省 線 中野驛

都 電 高圓寺一丁目

都 電 高圓寺一丁目

會 費 百圓(但日本保育研究會員八十圓)

申 込 期 日 及 申 込 場 所

開講前日迄に會費を添えて愛育研究所教養部まで

定 員 百 名

科 學 生 活 教 育

文部省科學教育局
部事務官

木 場 一 夫

一、はじめの言葉

「科學」といふものは、少數の専門家によつてのみ獨占され、或は大學や研究所や試験場などの奥深い場所でのみ取り扱われ、一般人には縁遠い別世界のもののように考えられ、なんだか、むつかしいものという風にうけとられて來たような氣がする。これはたしかに過去の不徹底な科學教育の負うべきものと考えられる。すなわち學校教育でも觀察や實驗が輕ろんぜられて暗記が先き立つたこと、理科の授業が教科書や參考書のなかにあつて、事物現象と直結しなかつたこと、科學と生活との結合が輕視されたことなど、その他多くの原因に支配されて、理科が面白くなく、兒童や生徒の血となり肉とならず、勿論自主的な學習の機運を生むことなく、よそ行き顔で私どもの過去の教育園から消えてしまつたという風にも考えられる。従つてまた、私どもは私達周邊にある卑近な事物現象のなかに科學があり、日常生活のうちに技術の應用が滿ちているのに氣付かず、また不思議もいだかずに暮し

て來たような氣もする。

實際、私どもの家庭生活、社會生活を熟視してみると、近代科學の恩恵をこうむつてゐるのをさると同時に、非科學的のものが、手もつけられずに山積してゐるのを知るのである。

これまでの教育では、教師の側にも兒童の方にも、人だのみが多く、自分で考へてみるものが非常にすくなかつたと思われる。これは日本人全體にひろがつて居る改む可き一つの缺點である。今からの教育では、自分から問題を發見し、考へ、それを處理する習慣をせひ養わなければならぬ。自分から事物現象について、合理的に考へ、それを處理し行く實踐力が科學に直結すること、従つて生活に密接に關連することに徹底させなければならぬ。

今年新しく出來た理科の學習指導要領（コース・オブ・スタヂイ）をご覽になつたでしょうか。理科教育の指導目標に、すべての人が合理的な生活を營み、いつそよい生活ができるように、兒童生徒の環境にある問題について、能力・

知識・態度を身につけるようにすること、とあるが、これは子供たちの科學教育の中心の生命でなければならぬと考える。私はこの合理的な生活、よりよい生活が出来るようにという言葉に、限らない希望をもつものである。

明朗で健全なより良い社會生活の建設のために——それがどれ程困難であるかは申すまでもないが——私どもは、幼児等の補導にあたる方に、新しい教育の理念と科學教育を御理解願いたいと希求するものである。

科學教育についてはいろいろ問題がありますが、ここでは次の二つの事について私の考えを陳開してみることにする。

一、ありふれたものに對する心構

私どもは生活周邊にある事物現象について、實際よく考へてみると、何もかも知つていようで、その内容については、ほんやりした不正確な知識しかもつてない場合が多い。

今更知識の重要さの講義でもあるまいと申される方があるかも知れないが、私は正確で最新の知識はいつでも重要だと考える。ところで知識について問題になるのは、知識を得る方法にあるのではないでしようか。水を飲みたくない馬を川のなかにひき込んで、水を無理に飲ませるような方法が、從來の理科の授業でも行われたのではあるまいか。兒童の年齢や環境にそぐわず、また必要と興味ない不消化の知識で下痢をひきおこしていたのではないだろうか。これでは必身の榮養分になりようがない。

資材が不足で、科學教育が出来ないと申される方が屢々ある。今日のように無理の多い際に、不足の資材を血眼になつて探す努力も必要であるが、先ずあるものを使つて、科學的修練をつむという風に、心持を廣く展開して指導すべきではないであらうか。

私は低學年或は幼児期の科學教育は、彼等の日常の生活のなかにあることを強調したい。故に生活周邊にあるものを用意し、活用し、それに自ずと興味をもたせるように、補導者の側で工夫することが必要である。全體的にみて、環境の整備は現在むづかしいことでもあるが、教師、兒童、父母が是非協力して實行されたい。科學教育が兒童の生活からとびはなれていては、地についた學習の展開はむづかしいことである。

自然の觀察が小學校の低學年の理科でとり上げられたのは、理科への導入のコースとしては正常のものであり、自由研究のテーマが自然の事物現象特に生物教材からも選擇されて居るのは、理科の實驗器具や資材が容易く入手出来ない今日では、誠に適當なことと云えよう。

自然環境に兒童をつれ出してみると、自然のもつ良い教材が理科以外にもみつかれる。學校園で栽培するものは、たやすく手に入るもの、ありふれたもので結構である。ただ觀察するだけでなく、自分の手で整地し、種子をまいて見ること、發芽したものを育てることによつて、なすことによることと期待がもたれるのである。

珍奇なもの、特殊なものも決してわるくはないが、今まで
は、ただわれ／＼が普通のものとして注意を拂わなかつたも
のは、それをよく見かけて居るというだけで、その内味につ
いてはくわしい事は知らないというのが通例でなかつたらう
か。

學校や幼稚園などで、畑や學級園をよくみますが、農作物
に障害を與えている雑草については餘り注意が拂われていな
いようである。雑草の研究が子供に向くか、又は兒童の關心
をひくかについては研究を要する點もあるが、大人の世界で
は、餘りにも所謂「雑草」とかたつけてしまいがちではない
であらうか。役立つ植物に關心をもつと同時に、あらゆる場
所に繁茂して大害を與える雑草に對して關心がもたれてよ
いのではないであらうか。

これは單に一例としてあげたのであるが、他に、わたくし
どもは日常見る雀、或は家庭のネズミ・ノミ・カ等について
どれ程の科學的知識を把握して居るであらうか。實際はこれ
等については餘りに知らずに、今は動物園でも見ることの出
來ない遠國のライオンについて本の上で與えられた知識を持
ち合せているという、一種こつけない状態にある。私はここ
でライオンの事を知らなくてもよいと申すのではない。ライ
オンのことを知ると同時に、これら私どもの生活と直接に關
係のある普通の動物について、正しい知識を持つていきたい
のだというのである。

とかく平凡なもの、澤山あるものは人々の注意をひかない

で、いつまでも無關心という層かごに投げこまれていた。そ
して面白い科學の本のなかに最新科學の秘密やエピソードが
かくされて居る様な錯覺におち入つてばいけないのであるま
いか。

無論興味深い科學の内容について正しい理解と満足をもつ
て讀む力を養ふことは必要なことである。しかも亦ありふれ
たものなから適當なものを選択して、これについて日常
觀察することこそ、科學教育の一つの在り方を指示するもの
としてここに取りあげてみたのである。

三、自然物の愛護

自然物（動物・植物・岩石・化石など）の勉強にあつて
の一つの心構は既に述べた通りであるが、ここに一つの重大
な教育上の要素がわすれられ、或は氣づかずに取り残されて
居るように思う。

例えば野生の鳥とか草花をとつて考えてみよう。それ等を
子供たちの學習の對象とするとき、または日常生活のなかに
見出すとき、それらに對する態度なり或はその取り扱いが、
あまりにもそまつであり、教師や父母の側においても、それ
らの補導について十分の思慮がはらわれていないのに氣付く
のである。

まず最初に、それらの野生生物が誰れのものであるか、と
いう問題について考えてみることにする。いま問題を簡單に
するため、鳥の例にとつて話を進めると、アメリカ合衆國の

教養ある人々の考方では、山野の鳥は、一人のものではない。一人のものであると同時に他人のものでもある。これは一寸奇妙な表現のようにお考えの方があられるかも知れないが、よく考えてみると、實にそうである。

野山にあそぶ鳥を捕えて、かごに飼うことは、それを所有して、よい鳴き聲と美しい姿に接する人にとつてはこの上ない楽しみに相違ない。然しながら、あるがままの自然のなかで、そのなき聲を聞いたり、或は美しい姿をたのしみたいと考える人や、またその鳥に、農作物や樹木の害虫などを食べてもらいたいと考えて居る人にとつては、大變じやまをすることになる。

鳥をむやみにおどしたり、捕えたり、殺したりしなければ、鳥は自然のなかでのびのびと生活することが出来、すべての人々のたのしみになり、また利益にもなるのである。

鳥がどんな實際的な利益を人々に與へて居るかと云ふ問題については、日本では、日本鳥學會や農林省林野局の人々によつて科學的研究がなされ、田畑の農作物の收穫や山林の樹木の成育と極めて重要な關係のあることが判明して居るのであつて、これは鳥の習性、殊に食性の研究が明らかにされた結果である。

ここに一例として雀をあけてみよう。一般の多くの人々は、一概に普通の雀は害鳥と思ひこんで居る。秋には穀物を食べるが、しかし、繁殖期のひなを育てる時にとる青虫の數量を考えてみると、簡単に害鳥とのみ言えない。

話が鳥に限られたが、野生の草花にしても同じことである。これ等のものは、人々がみんなでたのしみ可き共有の財産と言へる。すなはち社會のものであるのです。

植物の場合で考えてみると、天然記念物として特に指定されて居る櫻草を見に行つて、歸途には、花たばを造り、途中で花がしなびてしまひ、意味なく捨てたり、或は書さいの自分の机を飾ることを平氣でする人があつた。これは特に保護してあるものを、採集した亂暴な例であるが、私共の勉強や日常生活の上において常に反省す可き點である。また私はある日の朝六時頃、ふと人通のすくない窓外の通をながめてみると、三つ位の子供をおんぶした婦人が、よその垣根にさいている花を折つて子供に與えて居るのを見た事がある。先日、青森驛のプラットホームで、食事をしながら汽車をまつて居ると、人通りがすくないので、家鳩がホームにおちてる食べ物の粒を拾つて居た。そこにお母さんに手をひかれた四―五歳の男の子が通りかかつたが、鳩をみつめて「シッシ」と云つて追つぱらつてしまつた。

これを見て、食事中の私の脳には次の様な考が突然浮んだのです。私達が家庭で楽しく食事して居る時に、その部屋のかなかに突然、虎か或は狼のような獸類が侵入して來たらどうであらうか。これは一つの假定でしかないが、そこに描き出される光景は推察されるであらう。

だいが話が他にはすれたかと思つたが、私どもが自然に接する際には學習にしても、日常生活のうちにあつても、これら

のものをみんなのものとして愛護することの大切さを了解させたい。私は科學教育の基盤の一つに、ぜひこの考をとりあげたいと考えているのである。しかもこれはどうしても、子供の時代からの訓練がぜひ必要なことで、日本人として相當の知識人も、こんな風の物事の考え方について冷たんであることは、大いに反省す可きと思う。こう云う考え方は、大人の硬化した脳細胞には浸透がむづかしく、また實行にうつしにくい、よりよい社會生活をいとなむためには、單に一片の理科教育上の話として片付けられないような氣がする。

野生生物は社會共有のもので、すべての人のものであると云うことを念頭において、自然愛護への關心をたかめたいものである。殊に最近日本の自然界があらされて、その被害の大いいことに思い及ぶとき、こう云う考え方の普及をねがわずにはおられない。

四、むすびの言葉

ここに述べた以外に、まだ重要な事柄は多いのが、平素考えて居る事の一つにふれてみた。申すまでもなく、科學が私達のほんとうのものになることによつて、兒童達の補導力も増大することと思う。

何一つなすにも多くの困難の伴う時代であるが、新しい科學教育の實踐に精進され、よりよい生活の基礎が幼兒の時代から自然的に養はれるよう切に希うのである。

○久保田宵二氏著『林檎籠』

著者の童謡六十篇を集められた、しよらしやな詩集である。著者獨自の色と味と香りとを満載して、まことに書名にふさわしい新鮮さに充ちている。序詩「林檎籠」を初め、ボンボン蒸気、水平線、たつのおとし子、漬えん豆、あの子は好きだ、玉葱の新芽、平和の各分篇に分たれている。いづれも、愛語にふさわしいもののみである。加うるに、清水崑氏の多くの色刷挿畫、墨刷カット、いづれも風趣を全巻に添えている。(東京都北多摩郡國分寺町本多新田二七七〇新泉社發行。定價金十二圓)

○内山憲尙氏著『影繪芝居の製作と演り方』

著者のこの方面における研究と特技とは、更めていうまでもない。しかも、他の人形劇とは別な趣の多い影繪芝居については、此の書を読んでいただけでも、影の神秘の藝術が、味濃く味わられる。

第一章影繪芝居とは、第二章影の神秘性と影繪芝居、第三章各圖の影繪芝居、第四章兒童と影繪芝居、第五章影繪芝居の製作、第六章影繪芝居の演出法、第七章影繪芝居演出の一例、第八章影繪芝居の演技と脚本、第九章人間影繪芝居、第十章影繪芝居脚本。以て、如何に要をつくしているかを見ることが出来る。家庭と幼稚園とを満足させることを疑わない。(札幌市北七條東五丁目自由建設社發行。定價金千圓)

地上の花

高田市保育園
根 岸 草 笛

一 昨年一の秋の頃でした。

雄ちゃん一と云う男の子が、腫物で浮腫ウツのある足を重そうに引きずつて参りましたので、お薬をと思ひ、かい抱いて良く診ますと、その汚い足一ばいに、おぼつかない墨の假名書きで、「うま」、「うま」と書き散らしてありました。

可笑しいと思ひ、お母さんに聞きますと、當地では浮腫の事を俗語でクサと申すそうだ、その浮腫の出来た所へうま一と云う字を書いておくと、うまが好物のクサを喰べてくれるから早く癒えるというお呪いだ一と教えてくれました。

私自身、母の形見のこの小園を引繼ぐ前に約十年程、愛育村のお仕事に情熱を打ち込んで居りましたので、迷信には馴れていましたから、その時はまだその答えを大して氣にもせず、手早くお注射をしたり、ザルベを貼布したりして處置をして仕舞いましたが、その後しばらくしてから、又、漆にかぶれた女の子が、お顔と上半身をすつかり赫くして参りまし

たので、お家へ行つて、「病院へ行きましようよ、腎臓炎になるといけないから」と、お留守居のお婆さんに相談しましたところ、「とんでも無い。漆かぶれを醫者になど見せると痕跡が残る。それより、もうとうに、昨日のうちに、漆の嫁入りを済ませてあるから明日か明後日すぐ癒る。」と、言つて相手にしなさいのです。

漆の嫁入りと云うのは、やはりお呪いの一種なのですが、漆にかぶれた場合に、お酒と盃を持つて被害者を漆の前に連れて行き、口にお酒を含んでフーツと三べん漆の木に吹きかけて三々九度のお盃の眞似をし乍ら「漆、漆、さあこれでお前の嫁御になつたから元のキリヨウにしておくれ。」と、申しますと、漆が氣嫌をとり直し、どうせ自分のお嫁さんになつたのならば、綺麗なお嫁さんの方がよいと云うわけで、忽ち元通りに癒してくれと云うのです。

こんなことが度重なりますうちに、市と申しましても、まだ地方の小都市の母達の間には、農村と同じく刈つても根強く絶えない雑草の様に、迷信や傳染病が蔓延してい

て、私達の文化國家建設の理想とは凡そ縁遠い状態にあると云うことを、しみじみ悟らせられました。

又、黄昏時に街を歩いて見ますと、あちこちで子供達が哭っています。

一日の勞苦に疲れた母達が、乏しい材料を掻き集めて、夕餉の仕度に、只でさえ焦ら立ちたい神経を酷使している時に、空腹でむつかる幼児達の色々な要求はすいぶんと煩わしい事であろうと、ひどく同情はされますけれど、それにしても、あまりにも手荒な取り扱いをされたり、もの凄いや言葉で叱られたりしている場面に遭遇しますと、「教育」などという言葉と、全く正反對な様な氣がして、痛さに胸がえぐられます。

そして、「あゝ、これでは幼い者達の小さな心身がメチャ／＼になる。私達の晝間の幾時間かの保育の心遣いなども、達がこの有様では結局うたかたの様に消え失せて仕舞うのではないか。何とかしてこの母達をもう少し人間的文化的にその教養を高めて行けるような方法を一日も早くとらなくては行けない。」と、思い暮らす様になりました。

二

そこで、その具體的な指導方法に就いて、智慧を練つたのでございますが、この頃、指導者の間に、女性の自覺とか、母性の自覺とか云う言葉がしきりに叫ばれています。

母如何に新憲法に於て男女の本質的平等が規約され、参政權

が與えられたり、改正民法が實施されたりしたと致しまして、婦人自らの自覺が無くては、これまでの封建的隷屬的、非文化的な生活からの解放は望めない。

然しその指導方法は相變らず講演會、講習會、ラヂオ、新聞、ポスターと申します様な行き方で、そこには何等の新しい創意も工夫も見當りません。

しかも、私達の相手とする一般家庭の主婦達の只今の日常生活は、殆んど生きんがための食生活に全精力を奪われて、いとしい我が子の愛育に對する關心さえ磨り減らされていまして、その講演會はおろか、新聞やラヂオとさえ絶縁状態の人達が大部分であります。

それで所謂世の指導者の言葉は理窟としては十分に頷けるのでございますが、母性教育の現場の實際問題としては、如何にして諸々の母達に、自覺しなくては行けないと云う自覺を持たせるかと云う事柄の方が重大な先決問題なのでございまして、多くの母達はまだその自覺せねばならぬと云う自覺以前にあります。

一例を申しますと、過日の總選舉の時には婦人の棄權防止の懇談會をやれとの指令が参りましたが、懇談會や講演會に出席するだけの意欲のある者は出席してもしなくても、決して棄權などしませんし、又、何等かの方法でグン／＼と自分の力で向上して行きますが、その意欲の無い人達は、どんなに榮養價の高い講演會であろうと、それを聞きに来なければ自分の物にする事が出来ぬではありませんか。

人の来るのをボカンと待つていて、それで從來までの様に指導者が一段と高い所から見下ろしたり、號令をかけたたりしてみても、聞き手が無ければ無駄になりますし、又無理に聴衆を狩り出したりする事は當然民主主義の國掟にも反します。

ですから何とかして、母達の中から自分達の子供をより良く育てるために、お互いをもつと協力したり、勉強したりしなくては行けないと云う意欲が旺んに盛り上つてくる機会を掴めぬものかと心の中に激しい祈りの火を焚きながら、チット靜觀して居りました。そして保母達四人が心を併せて日々の保育に、眞實を傾け盡して居りました。

三

ところが或る日、ムツ子さんのお母さんが園へ来て、「先生、あまり無様な質問でござりますが、うちの主人は大貫と申す小さな学校の校長をして居りますが、この物價高で經營上、非常に苦心して身の細まる想いをしてします。なのにムツ子達は僅か月一圓二〇錢ぐらゐの間食料で、この缺配の最中に、時々オジャを戴いたり、甘酒を飲ませて戴いたりしたと申して報告しますが、一體どうして品物のやり繰りをしていて下さるのでしょうか、それから間食料を何故値上げなされないのですか、國民學校あたりでは、後援會があつて月々會費を徴収されます上に、時々、先生方のお見舞にと云つて全市の人達に頭割りの寄付の割當がくる位いですのに、保

育園の先生方は私達に一言の愚痴も仰有らないし物品を集めるとも仰有らない。

どの道、お互いに樂な筈はないのに、遠慮して何も仰有らないとなると、人一倍手のかゝる子供達を我が子以上に可愛がつて戴いて居る此方が、黙つて見て居るわけには行かない。と、云う氣がして、この間から、四五人の方達と話し合ひを始めて居ります。金澤さんも、紫さんも、五反田さんも、皆んなが皆な、亡くなられた老先生の時代から、たゞ今まで引續き五人も六人も兄弟を全部お襦袢の頃から預つて戴きおかけ様でどうやら生計も立つて居りますし、岡田さんなど、この間徳さんの疫癘を早く見つけて戴いたおかげで危し生命拾ひしたからと云つて、とても一生懸命なのでございます。」と云つてくれました。

私、とても欣ばしくなつて、頬を染め乍ら切々と想いの程を語りました。

おじやがは裏の畠を先生達が耕して收穫したものと、農學校の御好意に依る公定價格の品物であること。甘酒は私の親類の完納の百姓さんに事情を話してお節句のお祝ひに貰つて来たこと。しかし何時までも私達個人の力だけで續かどうか先の見透しがつかぬこと。又豫算をすつかり公開して、市の豫算も非常に窮屈なので、繪本その他の保育材料も買えずに困つて居ること、などを。それから私達の生活まで、お母さん達の好意に甘えると心の重荷になるから、その方は志だけ有難くお受けして絶對にお断りしたいけれど、皆さんが心

を一つにして子供達のお手傳いをして下さるとあらば此方でも是非お願いしたいと思つて居た折ですから、一日も早くその母の會を結成して下さい。私達も出来るだけのお役に立ちたいと希望して居ます。

と。

そして、その晩から直ちに準備委員會がつくられて設立の準備が進められ、約一週間後に總會を開いて、會則が議決され、役員の顔ぶれも決まりました。

四

その會則には大して變つた點もございませんけれど、兎に角、徹底的に母達の自發活動が主體になつて、私達はその良き助言者であると云う型をとりました。

又、役員は多からず少なからずと云う點を狙い、これまで園の方から連絡係を頼んでいた各町の班長九名の中から互選で委員を擧げ、又その委員の互選で委員長が擧げられました。會長をつくりますと、少し難しい事柄は會長一任と云う様なことになり勝ちで、他の役員が動きませんので、お互いが共同の責任を負う意味で委員制度にしました。

そして、その人達が中心になつて、最初は保育園の援護事業から活動が始められましたが、以後會員の活動は次第に目ざましくなりまして、私共が少しポヤ／＼として居りますと母達に追廻はされる程になり、昨年の冬籠りのお仕度などは始んど母の會の斡旋で出来ました。(豫算は市の方にあるの

ですが、なか／＼現品を手に入れる事が出来ませんので)

お炭十俵 金谷村に炭焼きの叔父さんのある竹澤さんのお

かけ

薪三百束 正善寺谷から嫁いで來たと云ふ紫さんのおかけ

杖きつけ七俵 お家の大工さんの金津さんのカンナ屑のお

かけ

雪圍いの竹三束、繩一丸げ お家に竹藪のある山崎さんの

おかけ

藁靴十足 風間さんのお手製品の寄附

と云う有様で、おかけ様で昨年は文字通りお母さん達の温かい心盡しによつて、幼い者達は安心して温い冬を過す事が出来ました。

その外、季節々々には、おじやがや南瓜の收穫(大部分品があります)を給食の足しに班長さんが、私達には誰がどの位いと云う名前や分量を知らせずに一纏めに集めて來てくれますし、お雑巾や、鼻紙や、古布、(繻帯の材料)なども、どんなものでも出せる人が出せるだけと云うことを建前にして、飽くまでも自主的に集めて來て来ています。

そして、生活扶助を受けてゐる人達を除いた全部の會員が、お金のある人はお金、品物のある人は品物、努力のある人は努力、それからお金も力も何も無いけれど、私は教師でお話が上手だからと云う様な人は委員會や總會の司會を受け持つとか、會計係を引受けるとか云う具合にして美しく授け合つて来ています。のみならず班長さんや委員さんの都合

の悪い時には、お父さんがリヤカーを引いて見えられたりして兩親協力の良いお手本も示してくれております。

そしてこの頃では、自分の子供一人が宇宙のすべてで、隣り近所とさえ協力出来なかつた母達がすっかり成長して、始終園全體の子供達の事を考えてくれる様に心が豊かになつて参りまして、先頃にも、子供達の蛔蟲驅除の時期になりましたのに生憎、藥劑が手には入らず延ばして居りましたところ前出の金津さんと云う委員さんが来て、「先生、セメンを見付けて來ました。靜子に飲ませたいと思ひ厚生同盟へ探しに行きました、どうせの事、保育園の皆さんにも飲ませてあげた方がよいと思つてお知らせに來ました。お金は豫算が無かつたら母の會で集めますから。」と、云うお話がありました。

それで私が直ぐに役所へ飛んで行つて、課長さんにその旨をお話しましたら、勿論衛生費など、ギリ／＼の所まで使い果してあるのですけれど、「お母さん達がそれまでに熱心なのに、高田市ともあるものが、それしきの經費が出せぬとあつては面子にもかゝる。宜敷い、何處かゝら捻出しましょう。」と、仰有つて下さいました。

それで私も「ついでに北ばかりではなしに東も南も同じ市の子供なのですからどうぞ飲ませてあげて下さい。」と、お願ひして實行して貰いました。

金澤さんは教育も小學卒業程度の低い人なのですけれど、しかしその母一人の自覺と愛情が遂に私達の園児のみならず

全市の園児の上に乗まで生きて参りました一つの微笑ましい實例でございます。

五

こんなにして私達の母の會は先ず園の經營の面から積極的な活動が始められました、母の會のありようとしては是非文化的な活動もなされなくてははいけませんし、又、それをこそ切望して居たのですから、その方面は保母が受け持つことに致しました。

そして、前にも申し上げました通り、終日外へ働きに出たり、乳呑子を抱えて毎日のお炊事と洗い物に追われて居る母達を、そう／＼度々、園に招き寄せて難かしいお話を無理に聞かせるのも酷だと思ひまして、ピクニックや運動會の様な愉しみの集り以外は全會員が一堂に集つて總會を開くと云う様な大きな會合は年五、六回に留めておきます。

その代り、主題があつたら私達がドン／＼出て行つて班單位の小さな集會を持ち、御夕飯のほんの一時を涼み臺に腰かけ乍ら、と云う程度の軽い氣持で、極く短時間に、要點をかいつまんで色んなことを話し合つて來ます。

それから回覽板を簡略にしかも興味深く工夫して、各方面の問題をとりあげ、積極的に活用してゐます。

お知らせ 第 號

昨日配給のするめは、一晩でもお醤油か、お味噌の中へ漬けておくきになれば、(薄い鹽水でも結構です。)お子様方

でも樂に美味しく召し上がれます。カチ／＼の儘を火であぶりますと尙更固くなりますので、お辨當の時に折角の御馳走が噛み切れず、遂方に暮れていらつしやる方を二、三人お見受けしましたから、一寸お知らせしておきます。尙、お焼きになつても鉋丁で縦にお切りになれば、よほど喰べ易くなります。

お知らせ 第 號

千鶴子さんのお母さんから、子供を映畫に連れて行つてよいかどうかと云う御質問を受けました。今春から、學校のお兄さん達が自由に見られるので、一緒に連れて行けと云つて暴れて困ると仰有るのです。

さだめし皆さんのお宅でも時々お困りになると思いますが、ついでにお知らせ申し上げますが、よい映畫なら、それから誰か確りした方が附き添つて、出来れば晝間に行つて下さるならば、絶對禁止をなさる必要はありません。殊に只今來ています「緑のそよ風」など、マーガレットオプライエンと云う小さな可愛い子供役が優しく聰明な両親に慈しまれ乍ら、無邪氣な惡戯をしてお父さまに叱られたり、水遊びが過ぎて洪水の大川に押し流されて村人達に救助されたり、夜中に街を通るサーカスの象を見につれて行つて貰つたり、非常に愛され乍ら又大事な所は厳しく嫉けられて居る、あちらの子供の家庭教育の様子が見ておても溜息が出る位に美しくしかも面白く撮られていますから、親子して御覽になるならば随分と爲になる教育映畫で

す。

然しなるべくならば、まだお小さいのですから、あんなに空氣も座席もキタナイ人混みの中へはお連れにならないで下さい。

夜分は殊に。

お知らせ 第 號

麻疹がいよ／＼北本町にも侵入して來ました。先日申し上げました豫防の御注意を、もう一度思い出して下さい。

お知らせ 第 號

圖書館に三日―十一日までの間、アメリカの子供の繪本や教科書や讀み物が來ています。

綺麗な挿し繪や確りした本のつくり方を御覽になるだけでも、大變勉強になりますからどうぞ私達は横文字が讀めないから解らないなど、諦らめて仕舞わずに、配給とりの歸りにでも、一寸覗いて見て来て下さい。

それから若しも日曜の午後にはいらつしやれる方があれば、私達も御一緒に行つて館長さんに詳しく説明して戴いてあげます。

館長さんは一人でも餘計に來て下さいと大歓迎をしていらつしやいますよ。

と、云う調子でございます。

○新保育講習會

東京女子高等師範學校主催の、幼稚園教員新保育講習は、七月の第一期五日間について、その第二期が、十月八日から五日間、同校において開催せられた。熱心な講習員諸君の中には、北は盛岡新潟、南は鹿児島大分等からの遠來の友もあり、總員約三百名、第一期からの懇親を重ねて、和氣あつたの間に豫定の通り行われた。

第一日

一、開會のことば

一、保育要領についで

一、「保育要領」研究會

第二日

一、幼児心身の發達及びその各方面の指導

一、「保育要領」研究會

第三日

一、新しい幼稚園の實際

一、「保育要領」研究會

一、主催者挨拶

第四日

一、幼児心身の發達及びその各方面の指導

一、「保育要領」研究會

一、主催者挨拶

倉橋幼稚園主事

坂元彦太郎講師

山下俊郎講師

倉橋惣三講師

藤本女高師校長

山下俊郎講師

一、特別講演「近代における幼稚園教育」

ヘファナン女史

一、附屬幼稚園實地保育參觀

第五日

一、實地保育參觀の研究討論

一、實地保育參觀の研究討論

以上の日程はいずれも充實したものであつたが、殊に「保育要領」の研究會は、文部省の幼稚園保育内容調査委員諸君（第一日、鎌田、及川、内藤、吉見。第二日、山下、井手。第三日副島、多田、内山、の諸氏）が、指導應答し、實地保育參觀研究討論會は、附屬幼稚園の當日保育の實際に當つた諸君（菊池、宮本、上遠、岡崎、吉田、伊藤、の諸氏）が説明應答し、いずれも倉橋主事司會の下に、講習員諸君の活潑な發言相ついで、時間のうつるを忘れ、新しい講習形式として、最興味あり意義深い成績が挙げられた。更に總司令部教育部ヘファナン女史の特別講演は文部省囑託功刀女史の巧妙な通譯を以て、豊かな示唆と感激とを與えた。斯くて出席の會員は、文部省講習規定による一般課程、教職課程の修了を證明された講習修了證書を懷にして、その任地に歸られた。

（附言）「保育要領」は文部省の幼稚園保育内容調査委員會の長期に亘る熱心を討議研究の結果を以て、文部省初等教育課によつて編集せられ、目下、整理中であつて、近く刊行せられる筈である。本講習會を第一期第二期に分けたのも、七月に保育要領が未完成であつた爲、その刊行を待つ

て、十月に第二期を開くこととしたのであつたが、それが間に合わなかつたことは遺憾であつた。併し、その内容の目録を印刷して會員諸君に頒ち、各問題につき、三回に亘りそれ／＼その悔に當つた委員諸君から説明せられ、質問應答を重ねられたのであるから、その大要を領得せられたことと思ふ。

尙、本講習は、初め、文部省の指示に基いて、認定講習會として計畫されたものであつたが後、認定講習會たる名がやめられた爲、第二回は、新保育に關する實力講習であり、舊幼稚園教育免許状を持される方々のための再教育講習として開かれた。従つて第二回は認定講習ではないが、各種課程の内容と時間數は、文部省の初めの認定講習の規準を守つたもので、その修了證書も、文部大臣認可講習會としての修了證である。

同様の主旨の講習會は各地にも開かれることであり、今回の幼稚園教員諸君が、それ／＼便宜の機會を逸せられないことをおすゝめする。資格に關することは別としても、新學制の革新に伴う研究は、各人必須のことであり、新憲法、教育基本法、學校教育法、新教育の原理、その基礎としての新教育心理學は勿論、幼稚園の教員にとつては、小學校、中學校の教員に一學習指導要領」の研究が必要である如く、「保育要領」の研究が必要であつて、その講習會に出席せられると共に、「保育要領」刊行の上は、講習會に出席した人も、後に出席しようとしていられる人も、そ

の書について自己研さん怠らないことが希望せられてゐる。(十月)

○本會編『幼稚園お話集』

本會が前に刊行した『幼稚園談話集』は、幼児を相手に、幼稚園の先生方、家庭のお母さん方が、お話しせられる資料、また、そのまゝ讀んで聽かせるに、児童として、廣く用いられてゐた。その後久しく絶版のまゝ、諸方の御要求に應じ得ないことを遺憾としていたが、新たにフレール館から發行せられた。すべての保育教材と同じく、児童のうちにも再検討を要すべきものがあり、廢止を適當とすべきものがある。新版においては、その點に嚴密な注意が拂われた。そうして、それらを除くとともに、新しい児童四十餘篇が加えられた。適當な幼児童話集の少ない今日、廣く用いられること、信し、本會の自せんするところである。上中下三卷に分冊したのは、一冊ずつでも早く刊行したかつたことと、當節柄定價を分割しようとしたことと、殊に、使用に便にしたいためであつた。上卷は既に出版、中卷下卷も既に印刷を了つて、順次出版されようとしている。『お話集』としたのは、古い保育項目の『談話』という語を避けたのである。(定價その他、本誌廣告欄)

保育の實際

運動會

東京女高師幼稚園 岡崎修子

秋の空は高く眞青です。空氣も澄んでいます。

廣々とした野原にでも行つたとしたらどんなによい氣持でしょう。子供達は自然を相手に夢中になつて遊ぶ事でしょう。おまゝごとをしたり、走つたり、とびはねたり——大人でさえ、じつとしてゐる事の出來ない秋です。此の時季をのがさないように戸外保育を充分行いましょう。

秋は又運動會の時節です。運動會といへば、自分の幼い時の事を思い返してみても、前の日から待ちこがれる氣持、かけつこの前に胸をときめかした事、お遊戯を家の人達に見てもらふうれしさ等一年中の一番たのしい事でした。

運動會については、どうすべきかと、時季をひかえて多くの人が考へておられる事だと思ひます。勿論するべき時が來たから、と行事的に、機械的に考へてなさる方が無いとはいへませんけれど、それについても新保育といわれるようになつた今日、「さて運動會は」と考へていらつしやる方があ

のではないでしようか。

それでは始めに「運動會は何のためにするか」という事を考へてみましょう。

身體諸機能の調和的發展をはかる、とか、體力を養うとか、運動を通して社會的の性格を育成するとか、大きく「體育」という目的をもつてきたようなむずかしい事はいくらでもいえるでしようが、其の日一日で體力が出來、性格が完成されるものでもありません。其の一日はどこまでも、三百六十五日中の特別な一日に違ひないので、ですから、つまり普段の日とちがつた氣分のうちに自分もたのしみつゝ、人をもたのしませる愉快な一日であつてほしいのです。秋は十分に此の氣持にさせてくれます。どうぞする時が來たからしなくてはならぬ等と機械的に考へず、子供も、親も、先生も共に樂しむために運動會をいたしましょう。

それではどのようにしたらよいでしよう！

準備

運動會を計畫通り楽しく終らせる爲にこれを完全にしまし
よう。前から少しずつ心掛けておき、前日の午後には一度調
べてみる位にしたいものです。

用具（特に銘々を持つてするもの等）は落したり、なくし
たりする事を豫想して充分にそろえて置きましょう。

走路等使う所の地面はよくしらべ、小石、穴など危険の無
いように注意しましょう。

練習

運動會までの練習ですが、充分にする事は勿論大切だと思
いますが、そうかといつて、毎日々々そのみにかゝつてし
まう傾よつたものになつてはいけません。

又場所に馴れるという事も大切です。出たり入つたりも運
動の中に含まれているものです。それをまご／＼せずする爲
にも出退場を含んだ練習もしてみましよう。

さて、新しい教育だからなんでも新しいものをしなく
てはならない、というものでも無いと思います。

こゝにあげたお遊戯、かけっこ等は昔から行われ一向にか
わつたものではありません。變らなくてよいのでしようか？
勿論時代の差こそあれ、子供という本質には、今も昔も變り
ありません。その子供の生活から生れ出てきた一番自然であ

り、最も生活に近いものなのです。子供は常に新しい、こ
れで吾々を引張り、そして古いものをも新しくならざるを
得ない息を吹きかけてくれます。

さあ今年も秋の一日を共に楽しく過しましょう。

○埼玉縣保育連盟の結成

埼玉縣では去月三十日午前九時から埼玉圖書館で縣内の幼
稚園、托兒所、保育園などの保育關係者が集合し埼玉縣教育
會の保育部會の役員の選舉や運営問題を検討しさらに豫て懸
案になつていた埼玉縣保育連盟の組織につき種々協議をかさ
ねた結果これが結成することになつて規約の決定役員の選舉
を行いいよ／＼相互の連絡を緊密にして保育振興をはかる目
的をもつて連盟が誕生した、因に役員は保育部會長兼連盟理
事長長沼依山、副部會長守田義廣同長屋丁部、理事羽島近作
繁田くら、岩伴次郎岩佐是光、中村トミの諸氏。

幼稚園の生活形態

—新しい幼稚園の研究課題として—

倉 橋 惣 三

○保育方法の前に保育形態

保育の實際の方法は家庭でやつても、極端には電車の中で十五分保育をする場合にも變らない。又保育の原理ということも、家庭にも共通している。ところがお互いにとつてよく考えておかねばならぬのは、幼稚園という「仕組み」に於てやる保育の問題である。幼稚園は家庭でなく、野原でなく、一つの特定の場であり、その場に於ての保育の方法が考えられなくてはならない。ところが、従来往々にして、保育の方法が、いかに行われるべきかの苦心が止まつて、幼稚園という「場」に就ての考え方が意外に少なかつた。そこでわれわれが考へねばならぬ第一は「幼稚園という所に於ける幼児の生活形態」である。あなたが幼児をどう扱うか、その根本原理が幼児に即しているか、ということの前に、幼稚園という場の研究が大事である。これが本當に行われなければ幼稚園教育は正しく行われるわけではない。實際には、これは必ずし

も幼稚園のみでなく、學校でも同じである。學校では教授法などのその根本に心理的原則がたてられてはいるが、學校がどんな場であるかについて先ず考えられなければ、學校教育は正しく行われぬ。學校がどうなつたら教育として本當の場になるか、或は又、どういう風にむけて行つたらその無理が少くなるかということを考えなければならぬ。すなわち方法の研究の前の前の研究があるのである。そこで學校の方でいへば、例えば朝子供が登校し、それらの組にはいる。組は分れて定員がある。そして學校的生活形態に於て机があり人がいる。われわれはこれを疑いなく學校とはそういうものだと、しきりに於てみている。學校を作るにもそのしきりに於て建てる。鐘が鳴つて定員がはいつて來るのが學校だなどと思つて不思議がらない。そしてその場で教え方を方法として考へる。それも大事だが、その前に場を考へなければならぬ。ここで場所といわず、場というのは、「場所」とはただ空間的な物をいうのに對して「場」とは、時間的變

化を含むもので、場所というより生きているものである。

アメリカでいうニュースクールでは、必ずしもニューメソッドを用いるのみならず、スクールという場を新しい場に變えていく。そこに問題があるのである。日本の學校とアメリカの學校とを假りに比較してみよう。日本の學校の教室は、四間に五間、二十坪が教育の場としてこれまで何の疑いもおこさなかつた。そこへいろ／＼の物が置かれ、はいれる丈の子供が入れてあり、それだから、或意味では殆んど身動きも出来ない状態におかれたりしている。身動きが出来ないから動いたのはつきりするし、すぐ他人をも邪魔する事になる。今日では、焼けて建て直す時には廣い場所は望めないの、三間に四間の小さい教室すらある。狭くなればそこへ入れる人を減らせば同じではないかというが、今日ではより多く入れなければならぬ状態である。すると子供の所有している場所は、與えられたるあれ丈の場である。それをも我々は疑わない。その中で上手に畫を描かせる法、歌を歌わせる法を研究する譯になる。しかし、新しい學校とは、その中で子供が自由に動けるのをいう。日本で古い學校を見つけた人はいうであろう。これは教室か、控室か、クラブかわからないと。これは方法でなく場の違いである。ところで、幼稚園とは幼児の爲に如何なる場なのであるか。幼稚園で先生が朝幼兒に「何しに來たの」と聞くとする。子供は「お話をききに來た」というかもしれない。お話にはたゞ椅子があればいい。そしてそれはたか／＼お話の間の事で、その椅子は柔い

方がいい。又、よりかかりのある方がいい。しかし話しをきく場が幼稚園なのではない。幼稚園で話しをきくのである。

映畫をみる場が映畫館である。故に映畫館はよくみえるように作つてある。映畫館で映畫がみえなかつたらつまらない。けれどもクラブへ行けば映畫がみえなくても共に楽しむクラブがある。幼稚園はお話をききに來る子に聞かせる處、すなわち演劇をみるものゝための劇場と同じ譯のものであるか。或はそういう風に考えられているのではないか。これに對して我々は、畫の描き方、お話のし方の前に、そこは幼兒の生活形態の場として適當か否かを考えねばならないと主張する。まず考えなければならぬのは、幼兒達が來て「生活」しているのである。そこで生活形態を考えずして方法へ行くのは本當のものになり得ないのである。そこでお互いの幼稚園を幼兒の生活の場として考えなおしてみよう。これは大事な根本的なものである。

生活の場としての幼稚園

我々は金魚を買つて來て器に入れる。鑑賞する爲に買つて來たのだから、丸い器に入れてみる。その小さな物の中に入る事は金魚には氣の毒だが、とにかく、泳がせる場である。泳ぐのは生活の場である。誰だつて金魚の泳ぐのを禁じる者はない。或は金魚に藝當を教える人があるかもしれない。それにしても一應ある廣さを持つた處に泳がしてみてその上の事である。魚は泳ぐべし、鳥は飛ぶべし。幼兒丈が何

間に何間の間に靜かにお話を聞きなさいといわれるとしたら、それは幼児の生活形態として自然なことであるか、その教育目的に於て是認する前に生活形態に於て疑いがある。「私は幼児を學校教育法に基いて教育したいと思う。その方法には熟達している。しかしどうしても子供達をあの幼稚園へ入れて来るのがいじらしくてたまらない。だからこちらから出かけて行つて、公園に草原に砂濱に、幼児が自然に生活している處に持つて行つて保育したい。」——こういう人があれば、私は敬意をあらう。これを「出かけ保育」といおう。集まつている子供について保育を始める。丘のなだらかな處で、集まつている子供を保育する。これは、方法を適用すべく幼児を特殊な場におかないのである。こういう事は、生活の場として愉快な事である。私は昔からそういつていた。例えば此處に保母さんの元締めをおく。何千人、何百人保母さんがいてこれをあちこちに派遣する。おまわりさん、消防夫を派遣するように。夕方子供が歌つていそなところへかけつけて貰う。それも大げさに更つた顔(教育顔)をしてかけつけば、子供達はびつくりして散つてしまふかも知れないから、何氣ない通りかゝりのような顔をしてよつていく。こういう行き方をすれば幼児の生活形態を自然に保てる。一人が病氣になつた時、病院にいらつしやいというのでなく、病人の寢ている所へ出かけて行くのが派遣婦なら、これは派遣保母であろう。若し子供の集まつていそな處をあちこちさがすのが大へんといわれるかも知れないが、町の紙芝居の小

父さんは實に子どもの集まりそうな場所にうまくいくのである。幼稚園をそういう場に比較すると、何と無理な、こしらえた處かと氣がつく。學校はその場に入る者が相當成長して、教育を受けるの必要を自ら知つてゐる。従つて、教育を受けるに都合よくこしらえられた場にはいる事を何とも思わない。しかし何もわからない幼児は、家庭や往來と違つた場に、監禁とまではいかぬが、靜かにさせられてゐるとしたらどうであろう。私が幼児なら奇妙な處だと云うだろう。「あなたの部屋はここだ」「あなたの組はここだ」と教えられる。椅子を置いてそこより一步も動く事相ならんという。そして先生はいう。「ちやあんとそろいましたか」「保育を受けるに都合よき姿勢をととのえたりや」と。われ／＼はこれらを疑いなくやつているが、これはいつたい幼児の生活であらうか。

こういうと全く新しい形で幼稚園を作らなければならぬことになるが、それまでのことでなく、今のような部屋でも、出来る丈生活の場とすることは出来まいか。これはどんなおもちやをえらぶ、繪本をえらぶかということより前の仕事である。魚を泳がして行くことなしに、魚に何が出来よう。本當に育てるなら、動かす事が本當ではないか。幼稚園も保育の方法を受けとらせるに便宜に幼児をはめこむに止まらずして、本當に彼等の生活をさせることを考えねばならぬ。今日の新しい學校もそういう方に向いてゐる。幼児の場合には一層それが大切である。

幼稚園における幼児の生活

そこで生活形態を考える上から、幾つかの問題に分けて考えられる。最初に「生活」とはどういう事が。よき幼稚園とは幼児をしてより多く生きた生活をさせる事である。そのよき生活とは何か。これを考えるについて、幼児を中心にして、生活には三つの種類がある。

一つは假りに「實際生活」という言葉を用う。私がこれを始めに上げたわけは、大人のいう生活では大體そこに重點をおくからである。「生活にあくせくしている」といつたりする場合の生活である。大人のいう生活は實際生活である。子供はそうした意味での實際生活の外にある。しかし子供にも必要に基づいた生活々動はあるのである。もとより極く小さい子は必要まで行かないで、外から生活させられている方が多い。しかし子どもでも大きくなるにつれて必要生活が始まる。又そういう年齢になると、人間の心理の本来として、必要を感じるのが愉快になつてくる。ところで、必要とは外にある。外にある必要をこちらの物にしたのが目的である。そうして、必要が外にあると重荷であるが、それが自己の目的にうつり代ると愉快になる。幼稚園に來て靴を脱ぐ必要がある。しゃがんで靴箱へ入れる。外套をぬぐ必要がある。背のびして自分のくぎにかける。皆必要が目的に置きかえられた喜んで時の愉快である。このように幼児も必要を感じて實際生活をしている。

ところが必要によらないで動いている生活がある。假りにこれを「自然生活」という。必要に迫られた事でなく、目的というみつめた事でもない。おのずからに出てくる生活々動といおうか、人がいれば人のそばへ行く、描きたくなつて畫を描き、作りたくなつて粘土を作る、別に必要を感じ、目的をもつのではないが、人や物と自分との間に興味關係が起るのである。大げさにいえば「關心をもつ」といおう。その興味關係を活動に出してくと生活となる。人にあえばにこりとする。話しをする。あいさつをする。あいさつという社交になるが、自然生活をしているのである。物を見ればいぢりたくなる。描きたくなり、作りたくなる。矢張り自然生活をしているのである。

ところがこの他にもう一つ生活がある。これは他の世界ではあまりない。學校という教育目的をもち教育方法を適用している世界に多い生活である。これを便宜上名づけて「課業生活」という。課業とは實際生活でも自然生活でもない。例えば手紙を書く場合「何日何時、用があるから來てくれ」というのは實際生活であり、「君を思い出していつかは楽しかつたね」というのは自然生活であり、「今日は手紙を書く稽古をしてごらん」と目的も興味も人間交渉もなしに手紙を書くのは課業生活である。こうして稽古をしておくと後に役に立つが、それ自身生活性が含まれていない。しかも、學校でも幼稚園でも、それを主にしている。子供が「つまんないや」と云つた時「私達もそうやつて習つて來たのだよ」とい

つて片づけている。何と、生活という事からいえば不自然な事であろう。私は幼児の爲に、何の理由あつて課業生活をしなければならぬかを疑う。そのさせ方の方法が優れている爲、幼児にも無理はないと思われて居り、幼児も方法の巧みにのせられて楽しげにやつているが、これは少しも眞の生活性のない事ではないか。但し課業生活が絶対にしてはならぬ事だとは云うのではないが、けれども課業生活を少しも疑わないのは間違ひである。生活の場ならば、何故に自然生活と實際生活を豊富に指導して行く事が考えられぬのか。課業生活指導のみ巧者なのがすぐれた先生ではあるまい。

そこでこの三つの生活を考へて來て、生活としては自然生活と實際生活が十分に出来る生活形態の場に幼稚園をしたいではないか。

さてこゝで「自由遊戯」について少し述べよう。自由遊戯の幼稚園における位置はいろ／＼に變遷している。極端にいえば、こういう考へ方もあつた。自由遊戯は子供にとつて楽しい事はわかっているが、それは家庭や、往來でやればよい。幼稚園という折角の教育の場所では勿體ない。幼稚園は課業生活を本體とするから遊び場ではなくはないよ、單なる遊園ではないよといつた考である。これは極端に云つたのであるが、若し先生にして、自由遊戯を許さざるにはあらざれど、幼稚園として積極的に尊重しないとすればこの考へ方に似ている。その際、幼稚園における自由遊戯は、たかだか、課業生活の間の休息としての價値が認められるという形

である。つまり、課業生活を本體として、自由遊戯をとり入れるというにすぎないのである。

その次は、自由遊戯を本體として、その中に課業生活を取り入れるのである。これは方法論的にいろ／＼考えられることであるが、それは暫く別にしておくとして、生活形態論としては課業生活と自由遊戯とは別の世界であるという考へ方である。ところで、或人が私にむかつて「まだ自由遊戯という言葉を使つていますね」といつた。課業生活としても自由なるべきものである。そこに自由遊戯という言葉はない筈だといふ意味である。昔或席でこういつた人があつた。「私は幼い頃幼稚園にあらざる幼稚園に行つていた」と。これは自由遊戯なんてもと／＼あたりまえのことだよ、幼稚園の出來ない前はみんなそうだつたから、といふ意味である。われわれはとかく、或形の幼稚園をきめてそれから變つて行くのを、新しいことのように思うが、自由遊戯は、元來が幼児のあたりまえであり、幼稚園のあたりまえである。それを先生は「當幼稚園ではこんなに自由遊戯をさせています」といふ。させるといつた特別のことではないのであるのに。

會 々

○この號の出る頃
は、全國保育大會の
最中か、或は終つた

頃かと思ひます。今から盛會を祈つていま
す。廣告文案が先月號を印刷した後だつたの
で、あれでも、やつと無理して載せることが
出来たのでした。もつと大きく廣告して、本
會としての賛同の熱意をあらわしたかつたの
でしたが。會の記事は必ず、くわしく掲載し
たいと思つています。

○本號、波多野完治氏の論文は、最も充實し
た内容を以て、しつかりした知識を與えられ
ます。精讀を希望します。童話の研究は、見
童文化として、大きくも深くも、してゆかな
ければならないことです。

○木場一夫氏の論文は、文部省科學教育の當
局者として、その正しい考え方を教えられた
もの、幼児教育の一大重要事項として、充分
の理解と考究を必要とすることです。

○根岸草笛氏は、農繁期託児所に關する二つ
の著書で、女流保育論者として名を知られて
いる人、その實際の經驗を、豊かな文章にあ
らわされています。

○岡崎修子氏は、體育の専門家、秋晴行事と
して、此の文を寄せられたが、本誌の發行が
おくれはせぬかと、氣にかゝります。

○倉橋主幹の講話は、ある講習會での講演の
要領筆記の一節。新らしい幼稚園の研究と實
現の一資料です。

○用紙、印刷、其の他諸經費の騰貴は、再び
本誌を値上するの已むなきに至り第四十六卷
第十號より定價金拾圓に改正致しますから、
何卒不惡御諒承を願ひます。

『幼兒の教育』編集

編集主幹

倉橋 惣三

協力委員

牛島 義友

及川 ふみ

齊藤 文雄

多田 鐵雄

山下 俊郎

(五十音順)

編集部員

丸山 長治

日本幼稚園協會

幼兒の教育 第四十六卷 第九號

定價 金 五 圓 也

昭和二十二年十一月十五日印刷納本
昭和二十二年十一月二十日發行

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

編集兼 發行者 倉橋 惣三

東京都千代田區神田神保町二ノ四

印刷者 發田 榮藏

東京都千代田區神田神保町三ノ二九

印刷所 明和印刷株式會社

東京都文京區大塚町三十五

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

發行所 日本幼稚園協會

東京都千代田區神田神保町二ノ四

發賣所 株式會社 フレーベル館

電話九段(33)三九七一番

振替東京一九六四〇番

○本誌御購讀について注文申込その他は
凡べて發賣所フレイベル館宛に願ひます

及川ふみ先生畫

又リエ

定價各金七圓

送料各一圓二十錢

本報は東京女子高等師範學校附屬幼稚園の立案にて全國幼稚園、保育所に採用せられ頗る好評、表紙極彩色頗る美麗、本文十六枚綴

B 判全二冊

卷一、年少用

卷二、年長用

じゆう画帳

A 5 判全一冊

定價金五圓

郵税金一圓二十錢

出席カード

十二枚一組

定價金拾圓

送料金一圓二十錢

各幼稚園の爲に特製した二つ折の美しい四色刷のカード一ヶ月一枚宛、十二枚一箇年分、裏面には幼稚園と家庭との通信欄を設け

手技用折紙

定價五十枚一組金拾五圓

送料金一圓二十錢

立體的な手技の初めで、児童自身工夫想像の餘地は少く、最初は全く模倣作業で稍困難ですが、慣るよにつれて喜んで之をいたします。可成正確に折らせる處に諸種の教育的價值があります。

全五色

各色五十枚

赤・青・黄・緑・紫

出席簿

五十枚一組

B 五判

一組定價金五拾圓

送料一圓二十錢

巾六寸縦八寸五分にて兩面刷です一枚に園児四十名分を記入することが出来ます

月謝袋

B 七判

五十枚一組

一組定價金廿五圓

送料一圓二十錢

發行所

東京都千代田区田代
神保町二丁目四番地

株式會社

フレペール館

振替口座東京
一〇四六九番

先生三惣橋倉顧問

キンタラタ

定價一册金拾參圓送料金五十錢

繪雜誌界の霸王

新しい保育用として全國の御家庭に
是非一册を備へられんことを

各地代理店

發行所

株式會社
ブルーベル館

東京都千代田區神田保町二丁目四番地

電話九段(33)三九七七一
振替口座東京一九六四〇番

北海道代理店 柏幼舎
北海道帶廣市東一條南九丁目一〇

東北代理店 淺見商事
高崎市田町三丁目十六番地
群馬縣伊勢崎市新町

東北代理店 關東興業株式會社
東京都葛飾區金町二ノ一〇七二

東部代理店 岡田廣太郎
福井市佐久良仲町

北陸代理店 柴田喜一
松山市末廣町二丁目二十二番地

九州代理店 幼兒の友社
岡山市小橋町百七十番地

中國代理店 明生社
岐阜市湊町十八番地

關西代理店 安田商社
東京都杉並區西荻窪三ノ九五

關東代理店 新友社